



四条西洞院には何かあるのか？

ふちんかん

銀閣寺の門前で最年少・M氏が振ったさいころの目は…203系統17番目のバス停。それは四条西洞院（しじょうにしのとくいん）バス停だ。このバス停は京都の中でも最も栄えている四条通にあり、その中心地と言える四条烏丸交差点のすぐ西にある。

前回の京都市バスすごろくで、2番目の取材地となり、さらに乗り場を変えて3回目を引いたところ、またしても取材地となった（つまり2回続けて取材地となった）バス停である。その四条西洞院バス停が、またしても我々の目の前に立っている。500以上あるバス停の中でなぜ四条西洞院が選ばれるのであろうか？なにか因縁のようなものを感じずにはいられない。

膏薬辻子(こうやくのすし)

バス停横に写真の立札があった。立札によると膏薬辻子とは、踊念仏で有名な空也上人がこの地に道場を建てて修行→将門の塚をつくり供養→「空也が供養」が訛り「膏薬」となり、細い道を意味する辻子が下に着いて出来上がった細道の名前らしい。



誘い込まれるように膏薬辻子を歩く。京都市の新景観条例を具現化したような街並みである。木板の塀など久々に見た。右の写真もホテルの一部であり、四条通側は普通のビルなのだが、こちら側は木と土壁の建物で覆うように加工されている。路地の途中にもこの景観を守るための町内会の掟のような文言が書かれており、なかなか厳しい縛りがあると思われる。一軒だけモダンな建物が建っていたが、風当たりがキツそうだ。鍵字に曲がった路地を50mも歩けば膏薬辻子の取材は終了である。

